

2020-04 2020.07.14

2020 年 7 月 議事録

2020 年 7 月 14 日 (火) AM10:00～12:00 東児童館卓球室

出席者；笹澤、篠原、山口、守谷、坂口、須藤、尾崎（東 2 自治会長）、谷澤、荻生、半田、鈴木

配布資料；会議次第、おくすり手帳活用しましょう、31 回 32 回 33 回、第一回役員会議事録（希望者）

@自己紹介；省略

<報告>

1. これまでの活動報告今年度の活動計画；主な 3 年間の流れ（総会資料参照）を基に説明。

MAP の方向性 & 更新作業の継続。高齢者のゴミ運搬問題、対象者別防災講座の開催など課題山積ではあるがコロナとの兼ね合いで状況を探りつつ可能な活動を行っていきたい。

2. 前年度の決算報告 & 今年度の活動予算；前年度の決算は総会資料参照。

今年度は 1 世帯 100 円の基準より五十塚（3500）東 2（35000）稲荷前 1 区（10000）稲荷前 3 区（9900）納入済。稲荷前 2 区（未納）

<議題>

コロナ禍の中で可能な具体的活動について

*（篠原）国土地理院 HP 立命館大学 HP 警察 HP etc.からの防災 MAP 交通情報 MAP 資料提供

→この地域で作るならば防災と防犯を兼ねた地図

*（笹澤）現段階での MAP は個人情報配布は NG だが 皆が見ても役立つ MAP（AED、エレベーター、井戸、防火用水、自販機、水没などの危険箇所）が出来た。

*（坂口）安心を盛り込むには、この地域は大規模な自然災害で危惧するのは震災ぐらい。必要なのは危険箇所よりは人の情報。緊急時に安否確認をするためには、日頃からのネットワークの作成が必要。

・有益人材のピックアップ ・高齢者障がい者などの弱者リスト ・今年集合講座は無理だが何らかの方法で意思を伝達して人集めをしたい。・見るだけの MAP ではなくて人と人が繋がる情報的 MAP

*（尾崎）つくば市は「情報都市宣言」をしたことから大地震に対応して地域の安否確認を求められそうだが実際その把握については五里霧中。行政が求めてきても状況が備わっていない。

*（山口）とりあえずの MAP は出来た。時間経過に対する更新は必要だが、これを住民全体に配布とかは進めずにこの情報を基に浮かび上がってきた弱者一人一人を誰が安否確認するかの担当分け、事が起こった時の担当者、連絡網などの作成に進むべきではないか。役割などの割り振りを行っておくと目線が客観的から主観的に変わる。配布されたハザードマップは何種類もあるが、要は自分とかかわりのある個所を流し見して仕舞い込む。配布することを考えるのではなく人材の配置を進めたい。

◎他の意見

・MAP の個人情報本人の了承を受けていない。日頃交流していない人から緊急時に電話での安否確認を受けても返答しないだろう。（不審者電話との区別がつかない）

・町会に入っている人は家族のある安心な人。独居老人、生活保護などはアパート在住（⇒自治会とは無関係）

・ハザードマップには常に利害が伴う（クレームが伴う）

・ハザードマップ作成過程に意味がある。作成メンバーに具体的な情報が耳に入る。

・MAP を配布するよりは☆市役所☆警察☆消防救急☆自治会役員☆自警団、パトロール隊☆民生委員☆ふれあい相談員 etc.の連絡先を A4 サイズに印刷した冷蔵庫に貼っておけるようなものを配布

・電話は固定、携帯の併せ持ちが良い。

・大曾根地域の MAP は作成費用 20 万以上

@次回未定